



まほろばだより

2022
December
vol.43

第43号



Contents

- Report1 奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞受賞者一覧
- Report2 性犯罪・性暴力への対応を考える
- Information 1 第12回女性研究者学術研究奨励賞募集
- Information 2 FD・SD講演会
- Information 3 令和5年度上半期研究支援員配置希望者募集



Information 1

第12回女性研究者学術研究奨励賞を募集中です 【令和5年1月31日(火)正午締め切り】

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

対象者は、**医学科・看護学科の教員(教授を除く)、博士研究員、特別研究員、大学院生又は医員の女性研究者**です。

第12回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内しています。

また、当センターHPでも募集に関するお知らせを掲載していますので、参考にしてください。今回も数多くの女性研究者のご応募をお待ちしています。

<https://www.naramed-u.ac.jp/~josei/activity/training/index.html>

当センターHP/女性研究者育成▶



Report 1

女性研究者学術研究奨励賞受賞者一覧

	所属	職名	氏名	研究テーマ
第1回	地域健康医学	講師	おかもと のぞみ 岡本 希	大規模コホートに基づく高齢者のQOLと生活機能の阻害要因に関する疫学的研究
第2回	神経内科学	講師	ふりや よしこ 降矢 芳子	神経変性疾患の診断およびリスクについての基礎的臨床的研究
第3回	附属病院 (中央臨床検査部)	講師	みずの れいこ 水野 麗子	高血圧症における心筋微循環障害と降圧治療の関連について
第4回	血友病治療・ 病態解析学講座	助教 (寄附講座)	まつもと ともこ 松本 智子	包括的凝固機能評価法の創出と凝固異常症の病態解明
第5回	皮膚科学	学内講師	みやがわ ふみ 宮川 史	CD8 T細胞免疫からみた皮膚疾患の病態解明
第6回	県民健康増進 支援センター	特任講師	とみおか きみこ 冨岡 公子	地域在住高齢者の健康長寿を規定する要因
第7回	眼科学	学内講師	にし とも 西 智	小児の弱視眼における網膜、脈絡膜構造の検討
第8回	消化器・ 総合外科学	診療助教	ながい みなこ 長井 美奈子	膵切除後合併症低減および膵癌予後向上に関する基礎的・臨床的研究
第9回	病理診断学	助教	うちやま ともこ 内山 智子	睡眠時無呼吸症候群のインスリン抵抗性発現の分子機構の解明
第10回	皮膚科学	助教	にしむら ゆき 西村 友紀	①再発性帯状疱疹の臨床的、免疫学的特徴の研究 ②薬剤性過敏症候群における重症度予測マーカーとしての血清TARC値の有用性の研究
第11回	小児科学	助教	ふるかわ しゅうこ 古川 晶子	血友病Aに関する基礎的研究および治療有効性評価法の確立

※職名は受賞時

平成23年度以降、これまでに11名の女性研究者が本賞を受賞されました。11名のうち3名は他学に異動し2名は教授、1名は准教授となっております。これらの方々を除く8名は全員本学で研究を継続し、うち4名は受賞後に昇進されています。11名の受賞者の方々の今後益々のご活躍を期待しています。

性犯罪・性暴力への対応を考える「性暴力を、なくそう」

「女性に対する暴力をなくす運動」が、内閣府その他の男女共同参画推進本部構成府省庁の主唱により、毎年11月12日から11月25日(「女性に対する暴力撤廃国際日」)まで、全国で実施されています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となって今年度の運動テーマである「性暴力を、なくそう」のポスターやリーフレット(図1)を大学や病院内に掲示しました。ポスター・リーフレットには、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターが明記されており、被害にあった場合の相談窓口の周知を図りました。

図1 令和4年度ポスター・リーフレット

あなたが望まない性的な行為は、性暴力です

話すことで、力をもらえる場所がある。

性犯罪・性暴力の相談窓口は、あなたの声を何よりも尊重し、あなたの意思を守ることに全力を尽くします。

「自分も悪いかも」と自分に言い聞かせて、性暴力が“なかったこと”になってしまう前に。まずは、あなたの声を聴かせてください。

性犯罪・性暴力で悩んでいる方へ、一人で悩まず、相談してください

電話で相談 **#8891 #8103** SNSで相談 Cure time

11月12日~25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

性暴力の悩みは、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891にご相談ください。

ワンストップ支援センターでは、あなたの気持ちを中心に、必要なサポートを一緒に考えます。プライバシーに配慮し、秘密は厳守します。安心して相談してください。

#8891では、あなたの意思を尊重しながら、あなたが望む行動を共に考えます。

相談 専門の相談員による電話相談や、面談による相談が可能です。相談者の不安な気持ちに寄り添い、どうしていいかわからない状態を一緒に考えます。	医療的支援 緊急避妊薬の処方や性病検査、妊娠検査などを行います。必要に応じて、産科や婦人科の紹介もいたします。	心理的支援 精神的ケアが必要な方には、必要な治療や心理的支援を安心して受けることができるようサポートします。
同行支援 警察への届け出や被害届の提出、検察への被害届の提出、裁判官への被害届の提出などを行います。裁判官への被害届の提出や検察への被害届の提出にも対応いたします。	法的支援 刑事手続き、民事手続きなどの法的支援や、被害者の権利を守るための法的支援を行います。また、被害者支援への支援も行っていきます。	関係機関と連携した支援 行政や学校などの関係機関と連携し、被害者の生活や学習の支援を行います。また、被害者支援への支援も行っていきます。

この他にも、様々な女性に対する暴力に関する相談を受け付けています。

配偶者からの暴力(DV) DV相談センター #8008 DV相談プラザ 0120-279-889	性暴力 性暴力に関するSNS相談 Cure time キュアタイム	性犯罪に係る被害や捜査 性犯罪被害相談電話(東京局) #8103
売春強要や人身取引 つきまとい、ストーリー行進の被害 各都道府県の婦人相談所	職場におけるセクシュアルハラスメント 各都道府県労働局雇用環境・均等課(課)	上記事例やその他の女性に対する人権侵害 女性の権利ホットライン(東京局) 0570-070-810 インターネット人権相談受付窓口(インターネット相談専用ダイヤル) 0120-079714

性犯罪・性暴力で悩んでいる方へ、一人で悩まず、相談してください

内閣府 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター 警察庁 性犯罪被害相談電話

電話で相談 **#8891 #8103** SNSで相談 Cure time

11月12日~25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しく傷つける重大な人権侵害で、被害者への影響は長期にわたることも多くあります。令和2年には、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」が内閣府・警察庁・文部科学省等の関係府省会議において決定され、教育機関においても性犯罪・性暴力の根絶に向けた取組や被害者支援の強化が求められています。具体的には、若年層の性被害に関する問題の啓発活動、大学等におけるセクシュアルハラスメントや性暴力被害の相談窓口の整備や周知、担当者への研修の促進が挙げられます。

同意のない性的な行為、避妊に協力をしないこと、セクシュアルハラスメント等、望まない性的な行為は、全て性暴力にあたります(図2)。被害者は10歳代以下や20歳代の若い女性に多く、交際相手や配偶者等面識のある人からの被害が大多数を占めています(図3)。本年6月には滋賀医科大学の男子医学生3名が強制的性交罪により起訴されるといった俄には信じ難い事件も報道されており、本学においても性犯罪・性暴力を防止するための教育や対策を強化する必要がありますと考えます。当センターでは、大学における性暴力への対応について学ぶために、FD・SD講演会を開催します。皆さま是非ご参加ください。

図2

性暴力とは

いつ、どこで、だれと、どのような性的な関係を持つかは、自分で決めることができます。
望まない性的な行為は、すべて性暴力にあたります。

あなたや周りの人は、自分の心と体を尊重される権利を持っています。性暴力は、その権利を著しく侵害するものです。被害者の心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼします。

性暴力は決して許されないものであり、被害者は悪くありません。
※性暴力は、刑法の処罰の対象となり得ます。

どのような性暴力があるの？(例)

同意のない性的な行為	セクシュアルハラスメント (他人を不快にさせる性的な言動)
■ 同意のない状態でのボディタッチ、キス、性交等	じろじろ見られて嫌だな しつこくデートに誘われる
■ 痴漢	肩を揉まれたけど嫌だな 性的なからかひを受けて嫌だな
■ アルコールや、レイプドラッグ等の薬物を使用した性暴力	アダルトビデオ(AV)への出演強要等の性産業への望まない従事
■ SNS等を通じた性被害	

出典:文部科学省「生命の安全教育啓発資料(高校(卒業直前)、大学、一般)」

図3

どのような被害が起きているの？

性暴力は、性別、年齢にかかわらず起こります。男性から女性のみならず、女性から男性、同性間でも、性暴力は起こります。身近な人や恋人、夫婦の間でも起こります。

男女合わせて約24人に1人、女性は約14人に1人が無理やりに性交等をされた経験があります。

無理やりに性交等をされた被害経験の有無

総数 (3,438人)	4%	92%	4%
女性 (1,803人)	7%	89%	4%
男性 (1,635人)	1%	96%	3%

■ あった ■ まったくない ■ 無回答 ※小数点以下第1位を四捨五入

無理やりに性交等をされたことがあった人に、被害に遭った時期を聞いたところ、「10歳代以下」が49%、「20歳代」が46%となっています。

被害に遭った時期

10歳代以下	49%
20歳代	46%
30歳代	16%
40歳代	11%
50歳代以上	1%
無回答	1%

※小数点以下第1位を四捨五入 ※複数回答可につき、合計が100%になりません

無理やりに性交等をされたことがあった人に、加害者との関係を聞いたところ、「交際相手・元交際相手」が29%、「配偶者・元配偶者」が27%となっています。面識のある人からの被害が大多数を占め、まったく知らない人からの被害は12%です。

加害者との関係

交際相手・元交際相手	29%
配偶者・元配偶者	27%
職場・アルバイト先の関係者、客	12%
学校・大学の関係者	5%
SNSなどで知り合った人	4%
その他の顔見知り	15%
その他	10%
まったく知らない人	12%
無回答	2%

※小数点以下第1位を四捨五入 ※複数回答可につき、合計が100%になりません

出所:内閣府男女共同参画局 男女間における暴力に関する調査(令和2年度調査)

出典:文部科学省「生命の安全教育啓発資料(高校(卒業直前)、大学、一般)」

Information
2

FD・SD講演会「大学における性暴力への対応—予防から被害者支援まで」を開催します

令和5年2月6日(月)17時30分開催のFD・SD講演会に島根大学 保健管理センター(学長特別補佐(ダイバーシティ推進担当))河野美江先生(医師・臨床心理士)をお招きし、「大学における性暴力への対応—予防から被害者支援まで」についてご講演いただきます。

参加希望者には、後日Zoom招待用URLをお送りしますので、所属・氏名・メールアドレスをご記入の上、件名を「講演会参加希望」とし、女性研究者・医師支援センター(jshien@narmed-u.ac.jp)までメールをお送りください。参加申込みは、令和5年1月30日(月)までとさせていただきます。講演会の詳細につきましては、1月に一斉メール等でお知らせします。

【講師】 島根大学 保健管理センター こうの よしえ 河野 美江 教授

【対象】 教職員

【日時】 令和5年2月6日(月)17:30～18:30 WEB開催(Zoom)

※参加希望者は1月30日(月)までに事前申し込みが必要です



※2月2日(木)までに招待用URLの連絡が届かない場合は、女性研究者・医師支援センター(内線2525)までご連絡ください。

Information
3

令和5年度上半期 研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、子育てや介護、不妊治療といったライフイベントにより研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師(常勤の女性教員、診療助教、研究助教及び病院助教)に対し、研究支援員を配置しています。令和4年度は、基礎医学系教員1名、臨床医学系教員10名、診療助教3名の合計14名の女性研究者・医師が本制度を利用しています。平成23年度以降、これまでに基礎・教養教育部門5名、臨床医学部門16名、看護学科5名の合計26名の女性研究者・医師が本制度を利用し、各分野でキャリア向上を果たしています。

令和5年度上半期(令和5年4月～令和5年9月)の希望者募集については、1月中旬に学内一斉メール・学内専用HPなどから案内予定です。制度の利用を検討されている方は、まずは女性研究者・医師支援センター 須崎康恵マネージャーまで(内線2525)お問い合わせください。

<https://www.narmed-u.ac.jp/~josei/activity/support/placement/index.html>



当センターHP/研究支援員配置 ▶



【編集後記】

今年も残りわずかとなりました。年末の華やかな時期に性犯罪・性暴力の記事を特集することは少し気の重い作業でしたが、皆さんと一緒にこの重大な人権侵害について考えたいと思い記事にしました。センターでは今後も、教職員や学生が安心して働き学ぶことのできる環境の整備に取り組みでいきたいと思えます。来年もどうぞよろしく願いいたします。

マネージャー 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

